

令和4年（2022年）4月7日

令和4年度長野県蘇南高等学校
入学式式辞「1ミリの成長からすべてが始まる」

長野県蘇南高等学校長 小川幸司

〇はじめに

本日、ここに令和4年度の長野県蘇南高等学校入学式を挙行いたします。

法律上は、その高校に「入学した瞬間」は、校長が入学を許可した瞬間です。しかし、本校では、校長が許可した後、生徒代表が高校生活の抱負を宣誓して、全員がその宣誓に署名して校長に提出します。蘇南高校の「入学した瞬間」は、「全員の署名簿を提出したとき」なのです。校長の許可だけでなく、生徒の皆さんの主体性があることで高校生活が始まる。これが蘇南高校の伝統です。

パンデミックの3年目に入った新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地域を代表してご出席くださいました、向井南木曾町長様、伊藤教育長様、矢澤PTA会長様に深く御礼を申し上げます。

晴れて入学を許可されて宣誓をしてくださった49名の新入生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます。心から皆さんを歓迎します。そして、保護者の皆様、お子様のご入学に心からお祝いを申し上げます。私たち教職員は、誠心誠意、お子様の成長を応援する覚悟です。

〇本校は「開拓者精神」を目指す

私たちの蘇南高等学校は、戦争の傷跡がまだ深く残っている戦後まもなくの時代に、この地域の若者が「ふるさと」で学び続けることができるよう、大人たちが力を合わせて創立した高校です。今年で創立70周年を迎えます。（皆さんは記念すべき70回生！）

登校するには厳しい坂道を登りますが、この校舎のある場所は、正面に峻厳な南木曾岳を仰ぎ、日当たりが良く、木曾川の洪水の心配がない土地です。当時の人々は、村の財政のかなりの金額を投入し、暮らすには絶好の土地を提供して蘇南高校を作りました。

なぜでしょうか。

それは、“未来の高校生が笑顔で学ぶ姿”を、夢見たからです。

今はまだ見えない未来に、自分が大切だと思う人（自分自身も含みます）がどうしたら幸せになれるかを想像して、今の自分が懸命に努力すること…これを「開拓者精神」と言います。本校が最も大切にしている理念が、この「開拓者精神」です。これは、私たちの高校を創ってくれた人々の思いを、ずっと受け継いできたものです。

〇わずか1ミリの成長であっても

皆さんが今日ここから始める蘇南高校の日々は、木曾・中津川だけでなく長野県下各地から集まってきた仲間とともに、「未来の人々の幸せ」に自分がどのように貢献していくかを考える日々になるはずです。

皆さんの人生は、今日ここで、「リスタート（再出発）」をきります。皆さんの先輩を見ると、中学時代に得意だったことを蘇南高校でさらに伸ばした人もいれば、蘇南高校の日々の中で初めて学ぶことがとても楽しくなったという人もいます。リセットではなく、リスタートという

表現を使うのは、今までの自分をすべて否定する必要はなく、一人一人のなかにある自分の魅力を高校でもそのまま育ててほしいと思うからです。「自分はこんなふうに頑張れるのか」「自分のここはやっぱり大切にしていきたい」と、「未来の人々の幸せ」を想像しながら、自分自身を見つめてほしいと思います。

繰り返しますが、「開拓者精神」とは、未来の人々の幸せを想像して、今の自分が努力することです。まわりの人々を見つめるだけでなく、努力できる自分自身を発見するのが、開拓者精神なのです。

蘇南高校では、折にふれて、この学習で自分自身のどんな力が付いたかを、振り返るでしょう。私たちは、自分で学習方法を変えていく力（学びの自己調整力）、あきらめずに試行錯誤する力（回復力）、学びの意義を確かめられる力（自己効力感）といった表現で、「今回の学びであなたはこの力がこんなふうにつきましたね」と皆さんの「小さな成長」を確認していきます。

それはわずか「1ミリの成長」にすぎないかもしれませんが、でもその1ミリに気づいて喜べる人は、努力を続けて30センチの成長につながられるのだと思います。30センチと言ったのは、3日毎に1ミリ成長できれば、3年間で約300ミリになるからです。そのような「小さな成長」の積み重ねを大切にすることで、今、世界の人々が本当に困っていること（それは地球環境問題であったり、ウクライナ戦争などの世界平和の問題であったりします）に立ち向かい、人々の幸せのために行動できる人間になっていけるのだと、私は確信しています。

「開拓者精神」とは、自分の「小さな成長」を大切にすることから生まれるものです。わずか1ミリの成長にこそ、生きることの素晴らしさの原点があるのです。

〇おわりに～コロナ禍にどう立ち向かうか

最後に、3年目に入った新型コロナウイルス感染症の危機にどう立ち向かうかについて、蘇南高校の方針をお話しします。

私は「ブリコラージュ」という言葉を大切にしています。フランスの文化人類学者レヴィ＝ストロースが『野生の思考』という著書のなかで用いた言葉で、目の前の壁を自分のもっている知識・経験を総動員して乗り越えていくという意味です。コロナ禍では、様々な変異株が現れ、常に経験したことのないような壁となって私たちの前に立ちはだかります。でも、この2年間の経験でわかったこと、身につけたことをもとに、自分の頭で考えて試行錯誤していけば、きっと乗り越えていけるはずです。蘇南高校は「100を0にしない」という方針です。コロナで簡単にあきらめて0にするのではなく、50%とか70%の別の形で何とか行動してみるのです。そのための合言葉が、「ブリコラージュ」（自分の知恵・経験でのりこえる）です。

今年のコロナ第6波による自宅学習期間中も、皆さんの先輩たちは、部員全員で毎日（縄跳びの）二重跳びを500回やり続けるとか、工業で学んだ電気工事の知識を使って自宅の改修を計画するなど、様々なブリコラージュを重ねました。コロナの時代を逆に利用して、自分の「小さな成長」を目指しているのです。

皆さんが、これからの蘇南高校で、私たちと一緒に、思い切りブリコラージュをしてくれることを期待しています。

では、蘇南高校での生活を始めましょう！

令和4年（2022年）4月7日

長野県蘇南高等学校長 小川幸司